

平成26年度 教育事務点検評価報告書  
(平成28年3月議会提出)

南風原町教育委員会

## 目 次

議会への報告について . . . . .	1
1. 教育事務点検評価審議会の会議の経過 . . . . .	2
2. 点検評価について . . . . .	3
諮問文 . . . . .	4
答申書 . . . . .	7
はじめに . . . . .	8
1. 教育委員会制度について	
(1) 教育委員会の概要	
(2) 教育委員会の会議	
(3) 教育委員会会議以外の活動状況	
(4) 教育委員会事務局の組織及び現員配置状況	
(5) 教育財政	
2 事務事業について . . . . .	12
(1) 評価結果	
・ 教育総務課	
・ 学校教育課	
・ 生涯学習文化課	
おわりに . . . . .	18

## 議会への報告について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条において、教育に関する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果について議会に提出するとともに、広く公表することとされております。南風原町教育委員会では同法に規定する教育事務の点検評価を実施するにあたり、教育に関して学識経験を有する者で構成する南風原町教育事務点検評価審議会を設置しております。

南風原町教育委員会部課長会議においては、第四次南風原町総合計画の施策に属する事務事業を各所管課（3課）から4事業を1課及び3事業を2課抽出して10事業についての点検評価の内部評価を行いました。

平成27年11月5日、南風原町教育事務点検評価審議会会長に対し「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について（平成26年度事業）」の諮問を行いました。

そして審議会の審議を経て、平成28年1月28日に、南風原町教育事務点検評価審議会会長より答申を受けました。諮問事項に関しましては、評価だけでなく、それぞれの委員の立場からの提言もいただきました。

今回の評価にあたってのご提言につきましては、本町の教育行政の執行に活かしていく所存であります。

本町教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価につきましても諮問及び答申の内容をとりまとめて、報告書として議会に提出するものであります。

平成28年3月2日

南風原町教育委員会  
委員長 仲村渠 苗子

### 地方教育行政の組織及び運営に関する法律

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 1. 南風原町教育事務点検評価審議会の会議の経過

### 第1回 南風原町教育事務点検評価審議会

日時：平成27年11月5日（木）午後1時～午後3時  
場所：5階 委員会室2  
委員出席者：委員3人中3人  
説明出席：教育部長、教育総務課長、学校教育課長、生涯学習文化課長、  
日程：1. 会長のあいさつ  
2. 教育長のあいさつ  
3. 諮問 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び  
評価について  
4. 各事業（10事業）の説明と質疑

### 第2回 南風原町教育事務点検評価審議会

日時：平成27年11月26日（木）午後1時～午後3時  
場所：5階 委員会室3  
委員出席者：委員3人中3人  
説明出席：教育部長、教育総務課長、学校教育課長、生涯学習文化課長、  
指導主事、各主管課班長  
日程：1. 第1回審議会の質疑事項の説明  
2. 各事業（10事業）のヒアリング（各所管課）

### 第3回 南風原町教育事務点検評価審議会

日時：平成27年12月10日（木）午後1時～午後3時  
場所：5階 委員会室3  
委員出席者：委員3人中3人  
説明出席：教育総務課長、学校教育課長、生涯学習文化課長、  
各主管課班長  
日程：1. 第1回、第2回での審議会の質疑事項の説明  
2. 各事業（10事業）のヒアリング（各所管課）  
3. 事務点検評価について  
（各委員からの各事業の点検評価の確認、まとめ等）

### 第4回 南風原町教育事務点検評価審議会

日時：平成28年1月21日（木）午後1時～午後3時  
場所：5階 委員会室3  
委員出席者：委員3人中3人  
説明出席：教育総務課班長、職員  
日程：1. 事務点検評価について  
（各委員からの各事業の点検評価の確認、まとめ等）

### 答申書提出

日時：平成28年1月28日（木）午後4時30分  
場所：4階 教育長室  
教育委員会出席：教育長、教育部長、教育総務課長、学校教育課長、生涯  
学習文化課長、教育総務課庶務班長

2. 点検評価について

(1) 点検評価対象年度  
平成26年度

(2) 点検評価の内容  
答申書のとおり

(3) 点検評価の方法

点検評価内容については、第四次南風原町総合計画の教育の施策に属する事務事業の中で、各所管課（3課）中、1課から4事業、2課から3事業を抽出しての10事務事業となっています。これらの事務事業を点検評価するにあたり、事業ごとの点検評価シートを作成し、妥当性・効率性等の複眼的視点による評価を試みました。

さらに、教育委員会による内部評価に加え、点検評価審議会による外部評価を加えることで、評価の客観性を確保しました。なお、評価における価値基準及び総合評価基準については、次のとおりです。

① 評価基準

評価については、妥当性・効率性・有効性・今後の展開の4つの視点から次表のとおり点数を付しています。

点数	妥当性	効率性	有効性	今後の展開
4	教育委員会が関与する妥当性が非常に高い	投入コストに比べ活動量が非常に高い	成果が非常に高い	事業規模の拡大が望まれる
3	教育委員会が関与する妥当性が高い	投入コストに比べ活動量が高い	成果が高い	事業規模の維持が望まれる
2	教育委員会が関与する妥当性が低い	投入コストに比べ活動量が低い	成果が低い	事業規模の縮小が望まれる
1	教育委員会が関与する妥当性が非常に低い	投入コストに比べ活動量が非常に低い	成果が非常に低い	廃止または休止が望まれる

② 総合評価基準

総合評価については、妥当性、効率性、有効性、今後の展開の合計点数により次表のとおり評価が下されます。

評価	妥当性・効率性・有効性・今後の展開の合計点数の範囲
A	14点 ～ 16点
B	11点 ～ 13点
C	8点 ～ 10点
D	4点 ～ 7点

諮 問 文

南教総第735号  
平成27年11月5日

南風原町教育事務点検評価審議会  
会長 梶村光郎 様

南風原町教育委員会  
委員長 仲村渠 苗子

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について（諮問）

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について、南風原町教育事務点検評価審議会設置条例第2条の規定により諮問します。

諮問事項

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

諮問理由

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づき、教育委員会の教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を実施し、議会に提出するとともに、町民に公表するため。

平成27年度（平成26年度実施事業）  
教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価対象事業

【教育部 教育総務課】

1. 教育委員会運営事業（定例教育委員会）
2. 黄金森公園スポーツ施設活性化事業
3. 黄金森公園運営事業
4. 学校給食実施事業

【教育部 学校教育課】

1. 教育相談事業
2. 英会話教育の充実事業
3. 児童生徒県外交流事業  
（徳島・南風原、子ども友好サマーキャンプ交流事業）

【教育部 生涯学習文化課】

1. 公民館講座事業
2. 陸軍病院壕公開活用事業
3. 子ども平和学習交流事業



# 答 申 書

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

平成28年1月28日

南風原町教育事務点検評価審議会

はじめに

南風原町教育委員会は、平成20年度4月1日から施行された地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の改正により、教育に関し学識経験を有する者の知見を活用するための付属機関として、南風原町教育事務点検評価審議会を設置した。この度の事務事業点検評価は、平成27年11月5日に南風原町教育委員会委員長から「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について」の諮問を受けて実施したものである。

点検及び評価を実施するにあたって、諮問された事務事業に関する資料提供を受け、事務担当課から事業の概要や状況について説明及び報告をしてもらった。その上で、不明な点について、追加の資料の提出や説明をしてもらった。また、学校や文化センター、中央公民館等への視察も実施した。

点検評価は、次のとおりである。

事務事業について

40余の主事業の中から、10事業について資料提供を受け、ヒアリングや視察等を行い、慎重に審議を行った。各課の事業とも町民を主体とした教育、健康増進、文化を高める事業として評価できるものであった。今後も、南風原町がより発展するよう、きめ細やかに事業の取り組みを進めていくよう期待する。

南風原町教育事務点検評価審議会

会長 梶村 光郎

副会長 浦崎 節子

委員 山中 久司

## 1. 教育委員会制度について

### (1) 教育委員会の概要

教育委員会は5名の委員をもって組織する合議制の執行機関です。委員は町議会の同意を得て、町長が任命します。任期は4年で、教育行政の安定を図るため町立小学校の校区毎に選任され、毎年1人ずつ改任（又は再任）されます。

委員長は、委員の中から互選され、会議を主宰し教育委員会を代表します。

また、教育長は委員の中から選任され、教育委員会の指揮監督の下に教育委員会の権限に属するすべての事務をつかさどり、事務局の事務を統括し所属職員を指揮監督します。

#### 教育委員（平成26年度）

役 職	氏 名	任 期	校 区
委員長	仲村渠 苗子	自：平成24年4月1日 至：平成28年3月31日	津嘉山小学校
委員長職務代理	長元朝 顯	自：平成23年4月1日 至：平成27年3月31日	翔南小学校
委 員	赤 嶺 幸 信	自：平成25年4月1日 至：平成29年3月31日	南風原小学校
委 員	仲宗根 廣美	自：平成26年6月1日 至：平成30年5月31日	北丘小学校
委 員（教育長）	赤 嶺 正 之	自：平成25年4月1日 至：平成29年3月31日	—————

### (2) 教育委員会の会議

平成26年度は、定例会12回会議を開催し、30件の議案を審議しました。そして教育長諸般の報告が12回、報告15件、その他の案件4件については議案に準ずる案件として議論したほか、議題を設定して委員同士のフリートークを行いました。

定例教育委員会へは、事務局の部長、課長、指導主事が出席し、議案と報告案件の説明、質疑に対する回答がありました。

また、町長と教育委員との意見交換は、当初予算の予算編成ヒアリング前に1回実施しており、教育委員会の重点施策及び主要事業について意思の疎通を図りました。

平成24年度より民生委員・児童委員と教育委員会との連絡会が実施され、各々の役割や意見交換等を行い相互理解に努めました。

### (3) 教育委員会会議以外の活動状況

教育委員が、職務上出席した研修会・行事等は、以下のとおりです。

- ・ 沖縄県市町村教育委員会連合会 3回
- ・ 島尻市町村教育委員会連合会 1回
- ・ 沖縄県市町村教育委員・教育長研修会 1回
- ・ 島尻市町村教育委員研修会 1回
- ・ 幼稚園・学校訪問（学力向上実践発表会など含む） 8回
- ・ 幼稚園・学校行事 12回
- ・ 教育講演会 2回
- ・ その他の行事等 8回

(4) 教育委員会事務局の組織及び現員配置状況 (平成26年4月1日現在)

組		織	人員(人)	備 考
教育部 計 64 人	部長		1	
	教育総務課 計 19 人	課長	1	
		庶務班	2	
		保健体育班	2	
		学校給食班	14	
学校教育課 計 7 人	課長	1		
	指導主事	1		
	学校教育班	3		
	学務班	2		
生涯学習文化課 計 9 人	課長	1	文化センター館長及び町立 図書館館長を兼務 (町立図書館)	
	生涯学習班	3		
	図書館司書	1		
	文化班	2		
	学芸班	2		
教育機関 計 28 人	町立中央公民館	1	館長(嘱託) 社会教育指導員(嘱託) 図書館司書(嘱託) 町史編集員(嘱託) 園長(嘱託)・教頭・教諭 図書館司書 図書館司書	
	〃	1		
	町立図書館	2		
	文化センター	1		
	幼稚園(4園)	17		
	小学校(4校)	4		
	中学校(2校)	2		

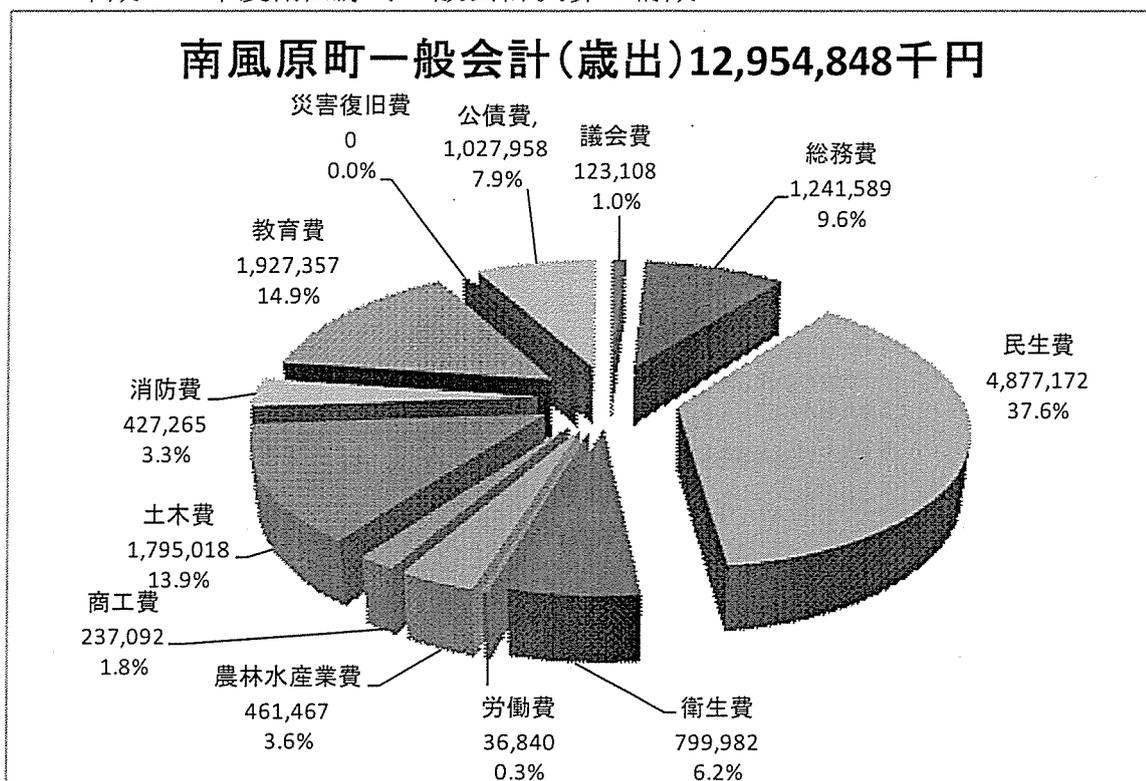
(5) 教育財政

平成26年度の南風原町の一般会計歳出決算は、12,954,848千円で、前年度の決算と比べて37,148千円(0.28%)の減となっています。

そのうち教育予算は、1,927,357千円で前年度決算と比べると330,921千円(17.17%)の増で、一般会計に占める比率は、14.9%となっています。

なお本町の一般会計歳出決算の構成、教育費の年度別決算額推移は、次のとおりとなっています。

平成26年度南風原町一般会計決算の構成



平成26年度教育費（課毎）財源別一覧表

単位：円

項目	教育総務課	学校教育課	生涯学習文化課	合計
負担金		992,750		992,750
使用料	14,040,955	28,813,950	10,678,350	53,533,255
国庫補助金	753,000	5,693,000		6,446,000
県支出金	12,000	132,664,000	2,166,000	134,842,000
寄付金	50,000			50,000
給食費	218,630,061			218,630,061
雑入	1,344,306	810,602	991,327	3,146,235
地方債		239,700,000	5,300,000	245,000,000
合計	234,830,322	408,674,302	19,135,677	662,640,301
その他計	234,065,322	30,617,302	11,669,677	276,352,301

※合計＝上記項目の全ての合計      その他計＝負担金＋使用料＋寄付金＋給食費＋雑入

※沖縄振興特別推進交付金を除く

平成26年度教育費決算額の財源別一覧表

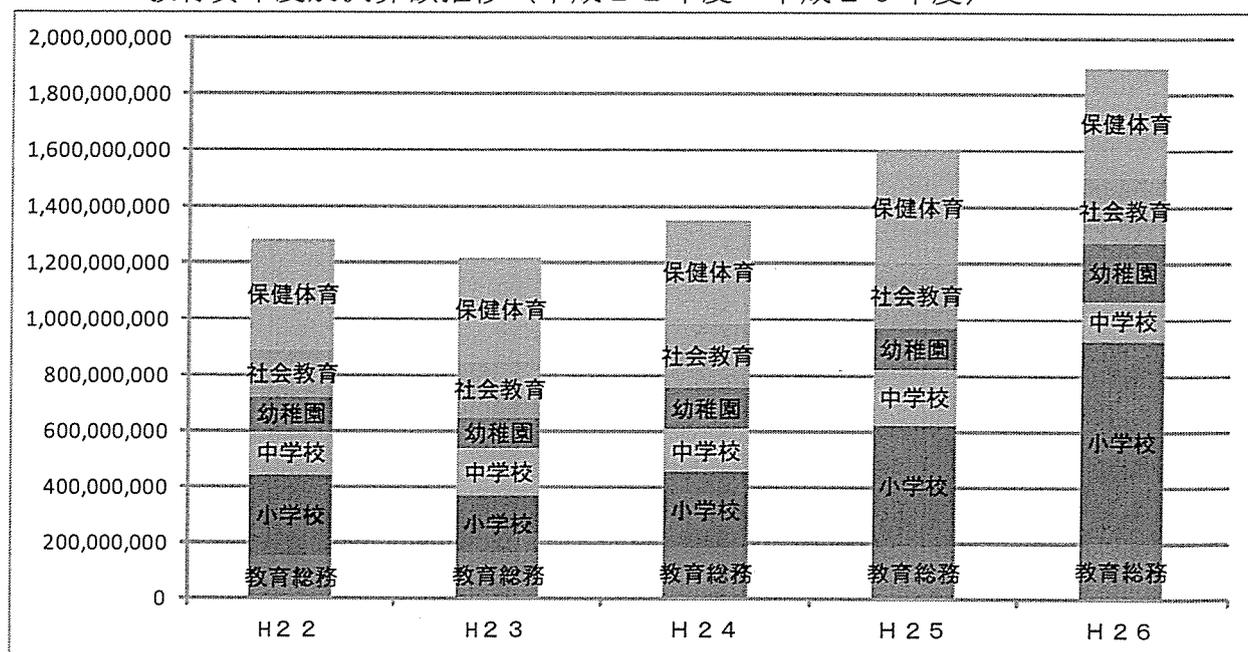
区分	決算額	比率
一般財源	1,264,716,616	65.62%
国庫支出金	6,446,000	0.33%
県支出金	134,842,000	7.00%
地方債	245,000,000	12.71%
その他	276,352,301	14.34%
合計	1,927,356,917	100.00%

教育費の年度別項別分類（平成22年度～平成26年度）

単位：円

款	項	H22	H23	H24	H25	H26
教育費	教育総務	151,055,584	167,488,895	183,096,256	190,762,317	202,940,819
	小学校	294,080,643	201,210,823	269,689,117	435,662,315	724,772,426
	中学校	155,173,738	169,342,189	154,534,578	197,542,563	140,959,968
	幼稚園	121,129,345	112,190,724	149,529,046	146,036,497	207,537,843
	社会教育	168,981,094	199,612,735	227,825,490	233,566,199	228,629,112
	保健体育	394,568,427	369,663,681	369,195,171	392,866,492	422,516,749
合計		1,284,988,831	1,219,509,047	1,353,869,658	1,596,436,383	1,927,356,917

教育費年度別決算額推移（平成22年度～平成26年度）



## 2 事務事業について

### (1) 評価結果

教育委員会が行った内部評価及び南風原町教育事務点検評価委員会が行った外部評価の結果は次のとおりである。  
第四次南風原町総合計画

- 家庭と地域が一つになり、安らぎと豊かな人間関係を育む、家庭教育
- 地域に学び、地域を愛する人を育む、ふるさと教育
- 個性を伸ばし、豊かな心と健やかな体を育む、地域に根ざした学校教育

事業名 (担当課)	事業概要	評価区分	評価詳細					説明等
			妥当性	効率性	有効性	今後の展開	総合評価	
教育総務課	教育委員会 運営事業 (定例教育 委員会)	内部評価	4	4	4	4	A	毎月の定例会では、その時々案件に対して積極的に意見交換及び審議し、成果を得ている。更に、定例会終了後は、教育に関することを議題とした意見交換会を積極的に行っており、年に1回は社会教育委員との意見交換会も行っている。委員、教育長の研修会へも全員で参加している。各学校への入学式・卒業式等の行事もほとんど参加している。また平成22年度からは、学校公開日を設けて授業参観を行い、後日学校訪問を行うなど校長等との意見交換会や児童・生徒の激励に努めた。PTA役員研修会にも参加し保護者との情報交換を行ったり学校給食週間交流会では直接児童生徒と給食を摂りながら関わりを持っている。
		外部評価	4	4	4	4	A	教育委員の毎月の定例会への出席率が、今年度も全体として高かった。平成20年度以降定例会の会議の持ち方や教育委員の活動の改善に努めてきたこともあり、「教育社会での課題、児童生徒の活躍や学校現場での事件事故、事務局担当の日常的な苦勞、地域が求めているもの」などが適宜情報として提供され、今年度も実質的な議論がなされている。また、委員は、学校や幼稚園を訪問し、行事への参加、授業見学、学力問題などでの意見交換等を行い、学校や幼稚園の実態把握に努めている。こうしたことと、父母や地域住民、教職員からの教育への要望等の把握もさらに普段から行われれば、教育委員会での議論もこれまで以上に具体的な形で行われ、教育委員会の活動が形骸化するのを防いでくれると思われる。各種研修会への参加状況もよく、様々な研修課題への取り組みや交流は、教育委員の視野の拡大や意識を高めることにも繋がり、教育委員会の活動の質的向上に繋がるものとして評価できる。さらに、社会教育委員との交流も継続されたことも町全体の教育の向上に繋がるという点で評価される。

第四次南風原町総合計画

- 〈大分類〉〇地域に学び、地域を愛する人を育む、ふるさと教育  
 〇ともにつくる、健康づくりと保健福祉のサービス基盤の整備  
 〈中分類〉〇学びの場の充実 〇健康づくりの推進  
 〈小分類〉〇スポーツ施設の活用を通して町民の健康増進を図る

事業名 (担当課)	事業概要	評価区分	評価詳細					説明等
			妥当性	効率性	有効性	今後の展開	総合評価	
教育総務課	黄金森公園スポーツ施設活性化事業	内部評価	4	4	4	4	A	黄金森公園陸上競技場の施設を有効に活用し、名古屋グランパス春季キャンプの誘致に成功した。 キャンプ9日間のトータル約1万人の観戦者となった。また、県出身者の田口選手を含め5人の選手とサッカースクール講師4名によるサッカー教室を行い120名の小学生が受講し技術力向上が図れた。さらに、グランパスの管理栄養士によるサッカー少年・保護者に向けた栄養講演会を開催し約100名の参加があり、食育・健康づくりへ繋がった。
		外部評価	4	3	4	4	A	当運動施設は町内外の青少年・多くの町民が競技力向上や、健康増進を目的とした、トレーニングの場・リフレッシュを図る場として、大切な施設である。 トレーニング機器をはじめ諸環境が整備された黄金森公園陸上競技場に於いてプロサッカーチーム(名古屋グランパス)の春季キャンプを誘致して観客動員や青少年を対象としたスポーツ教室等を実施して活性化を図り大きな成果を上げている。 関連行事として開催されたサッカースクール・サッカー少年の保護者に向けた栄養講演会等に於いて技術力の高いプロの選手から直接手ほどきを受けることや、食の指導による基本的な身体作り等は、技術力の向上はもとより、競技を志す青少年の夢をはぐくみ心身の伸長に好影響が有ったものと推測する。 キャンプ誘致に当たり、運動施設内の諸環境整備(環境美化)がなされ、スポーツ施設内外の状況が一新し、より効率よく運動ができるようになった。 良好な環境で、多様な運動施設だが、町民への認知度がまだ低く、限られた範囲の利用者状況にとどまっているのはおしい。本町のスポーツ推進委員・健康保健課等関連部局と町民との接点を密にした、子どもから高齢者まで参加できて継続性のあるイベントを計画して、町民の運動習慣・健康増進に寄与出来る町民サイドへの活性化を図る事業の展開を希望する。

第四次南風原町総合計画

- 〈大分類〉〇地域に学び、地域を愛する人を育む、ふるさと教育  
 〇ともにつくる、健康づくりと保健福祉のサービス基盤の整備  
 〈中分類〉〇学びの場の充実・健康づくりの推進  
 〈小分類〉〇スポーツ施設の活用を通して町民の健康増進を図る

事業名 (担当課)	事業概要	評価区分	評価詳細					説明等
			妥当性	効率性	有効性	今後の展開	総合評価	
教育総務課	黄金森公園運営事業	内部評価	3	3	3	4	B	・スポーツ施設を有効に活用し、町民の健康づくり・体力づくりに取り組んでいる。 また利用料金を改定し町民が利用しやすい環境作りを行った。 ・トレーニング室に高性能のトレーニングマシンを導入した。 (H27.8.1よりトレーニング室にトレーナーを配置し、安全管理を徹底し、初心者の方でも利用できる施設運営に努めている。)
		外部評価	4	3	3	4	A	多様な施設を有する黄金森公園運動施設は、スポーツを志す若い世代や、健康増進を目的とする多くの町民の運動実践の場所であり、憩いの場、リフレッシュの出来る場として、健康づくりに重要な役目をはたしている。当施設を利用するのは、町民だけでなく近隣の運動や競技を志す人たちの大切なトレーニングの場ともなっている。(陸上競技場・野球場・マシントレーニングルーム他) 整備が施された良い運動環境であるため利用者も多い。一般の健康増進目的の利用者と、競技力向上を目指す利用者のエリア表示がないため、過密時間帯や、競技シーズン時期になると、ぶつかったり、接触したりとトラブルも多い。安全に運動を実施するための配慮が必要である。 トレーニングルームでは、当年度より専属の指導員の配置がなされ、安全かつ適切な運動が実施されている。特に指導員の配置を受けて、女性の利用者が多くなっていることは望ましいことである。 ウォーキングコースにソフトラバーを施し、膝や腰への直接的な刺激を和らげ安全に運動実践ができるのは素晴らしいことである。鮮やかなグリーンソフト歩道、適当なアップ・ダウンのコースは優れた有酸素運動の実践場である。要は大勢の町民の利用が望まれる。 各施設とも照明設備も充実し、夜間利用にも安全に対応できる。施設利用料金の設定を町外と町内の区分設定をしたことは、町民への恩典として利用者の拡大に効果が見られる。

第四次南風原町総合計画

(大分類)〇個性を伸ばし、豊かな心と健やかな体を育む、地域に根ざした学校教育

(中分類)〇子どもたちの心身の健康づくり

(小分類)〇健康や環境の視点も取り入れ、学校や地域の特徴を生かした食育の推進を図ります。

事業名 (担当課)	事業概要	評価詳細					説明等	
		評価区分	妥当性	効率性	有効性	今後の展開		
教育総務課	学校給食実施事業	内部評価	4	4	4	4	A	<p>食生活を取り巻く社会環境の変化に伴い、偏食、朝食欠食など子供の食生活の乱れが見られ肥満傾向にあるので、学校給食を活用した食に関する指導を実施しました。又、県内及び町内の野菜等を献立に取り入れることにより、地産地消に取り組みました。また、重度の食物アレルギー疾患の児童に関わる対策としては、3者(保護者・担任・栄養職員)で毎月、翌月の献立について詳細なミーティングを実施して、アレルギー原因食材の確実な把握を共有して該当する児童の安全を図っています。</p>
		外部評価	4	4	4	4	A	<p>安全でおいしい給食を提供し学校がより楽しく豊かな場所となるように、学校給食と食育指導が実施されている。前年度から始まった幼稚園での給食の開始で、幼稚園における食育指導が実施されたほか園生活にゆとりが生まれ、午後の預かり保育など充実した園生活を送っている。また食物アレルギー対策としてアレルギー物質を含む食材を明記したより詳細なメニューの配布、栄養士、担任、保護者の3者による定期的な話し合い、教室へのエピペンの配置など食物アレルギー疾患のある児童へのきめ細かな対応がなされている。</p> <p>安全な給食を提供するため、専門業者に委託して定期的な検査を実施して衛生管理を徹底し、設備等の安全管理が図られている。また県内産の新鮮な食材の活用にも配慮し、郷土食や行事食などのメニューが工夫されている。毎月配布される献立表には食材の産地が書かれ、豚肉や鶏卵、牛乳、野菜、海藻類など多くの県産品が使用されている。食べ残しは野菜類や豆類に多く見られ、中学校で多くなっている。残滓を少なくする工夫として放送教材で旬の食材を食べる意義や、県産品は新鮮で安全なことなどを伝えている。</p> <p>給食費の滞納への新たな取り組みとして、徴収方法を変更したことで収納率が向上し、材料費の安定的な確保につながっている。また過年度分の収納率が前年度比で5倍に向上している。</p> <p>子どもの生活習慣病の増加、子どもの貧困の問題など食生活が抱える課題は多様である。児童生徒の肥満ややせの状態を把握するなどして、メニューや栄養教諭による食育指導に生かされている。すべての園、学校で栄養教諭が直接学級に入って授業が行われ、好き嫌いをなくし生活習慣病を予防する、望ましい食の選択などが系統的に指導されている。</p> <p>町内産の食材を活用した郷土食や行事食(ハレ)の提供は、地域への関心を育み食を楽しむ習慣の育成にもつながっている。学校給食が子どもたちの食生活を豊かなものにするとともに、地域の食生活の改善の一助となるように、関係機関と連携して食育指導を充実し、今後も安全でおいしい給食の提供に努めてもらいたい。</p>

第四次南風原町総合計画

〈大分類〉〇個性を伸ばし、豊かな心と健やかな体を育む、地域に根ざした学校教育

〈中分類〉〇子どもたちの心身の健康づくり

〈小分類〉〇教育相談の機能を充実させるとともに、心のケア、不登校対策を地域、関係機関等と協力しながら取り組みます。

事業名 (担当課)	事業概要	評価区分	評価詳細					説明等
			妥当性	効率性	有効性	今後の展開	総合評価	
学校教育課	教育相談事業	内部評価	4	4	4	4	A	教育相談員は学校及び教育委員会等と連携して、登校しやすい雰囲気づくりを行っています。また、直接児童・生徒や保護者の相談に当たること、児童生徒の心情理解や不登校になった背景の理解に努めています。あそび・非行に加え、情緒・発達障害など不登校問題も複雑・多様化しており、今後も継続強化が望まれる事業の一つです。
		外部評価	4	4	4	3	A	児童生徒が心身ともに健やかで安定した状況で学校生活に参加することは、本人、家庭、学校にとっても幸せで最も望ましいことである。 しかし、子どもたちを取り巻く環境や背景はきびしく、心因的な要因や、基本的な生活習慣等の要因による不登校や登校しぶり、無気力や怠学・遊び型など、その要因は単一でなく絡み合い、根拠が特定できず解決するのは困難な事である。 その状況の要因は、当人のみのものではなく、背景にある家庭環境・親子の関わり・学校での居場所・友人関係・学習状況など複雑で、理由は多岐にわたり解決策も一筋ではない。 本町における教育相談に関わる現状は、学校に於いては(学校長を中心に、教頭、学級担任や相談担当職員、養護教諭、適応指導教室支援員、自立支援教室支援員、アシスト相談員、ソーシャルワーカー、カウンセラー)によるケース会議によって綿密な情報の共有を図り、家庭訪問や支援、学習支援等を行っている。 家庭に於いては、基本的な生活習慣の確立や定着を図るため支援をし、学校との連携を学校長を中心に学級担任との相談・面談実施、アシスト相談員やソーシャルワーカー、カウンセラー、民生委員、主任児童委員との連携を密にしている。 本町教育相談事業は、教育委員会、社会福祉協議会、適応教室(しののめ教室)、こども課、南部福祉保健所、南部地区民児協、与那原警察署等により専門的な立場・役割のもと支援やケース会議、登校支援会議等を実施して各々の状況に応じたサポートを行っている。細やかな施策のもと、根拠が複雑で数値的な結果を出すのは困難な事であるが、関わっている方々の努力で完全登校は出来ないが、途中登校や登校回数が増える等、家庭訪問を通して本人や保護者との繋がりが持てるなど内容的には顕著な改善が伺える。 不登校等の課題を進展させるには、関わりを持つマンパワーの拡大、教育相談スキルの向上のための研修(ケースに対する的確な理解力・実践力の確保)、専門的知識者の投入(町専属カウンセラーの採用)が求められる。

〈大分類〉〇個性を伸ばし、豊かな心と健やかな体を育む、地域に根ざした学校教育

〈中分類〉〇子どもの自治意識や豊かな心を育む学習内容の充実

〈小分類〉〇子どもたちが自ら学ぶことの楽しさを体得できる教育内容の展開をはじめ、様々な人との交流や文化に触れる等の体を通して、自己表現・コミュニケーション力の向上を図ります。

事業名 (担当課)	事業概要	評価区分	評価詳細					説明等
			妥当性	効率性	有効性	今後の展開	総合評価	
学校教育課	英会話教育の充実事業	内部評価	4	4	4	4	A	各小学校に英語指導助手1名を配置、中学校にも1名外国人英語指導助手を配置することができた。そのため小学生から外国の言語や文化について興味を持たせるとともに、小学校英語から中学校英語へ移行する際に苦手意識を持たせないよう努めました。今後も英語力が向上するよう引き続き英語指導助手を配置する。
		外部評価	4	3	4	3	A	本事業は、南風原町内にある小学校と中学校の児童・生徒を対象にして、小学校では英語に触れたり、外国の文化に慣れ親しむ体験活動を行い、中学校では外国人とのコミュニケーションにより英語に親しみ国際社会で使える英語を習得させることを目的としている。と同時に、英会話への苦手意識を持たせずに小学校英語から中学校英語への移行を抵抗なく行うことと中学での標準学力調査の正答率の向上も目的としている。具体的な施策として、四つの小学校に英語指導助手各1名を配置、二つの中学校に外国人英語指導助手各1名を配置、土曜英会話の設置など努力されている。また、学校でも各校持ち回りで英語の授業研究会(年1回)を実施した。これらの結果、苦手意識を持たせずに英語の基礎学力の向上がなされた。目的が達成されているという意味で言えば、本事業は成功していると言ってもよいだろう。英会話に触れる機会が保障されている点や、外国人指導助手の配置による、英会話や外国人とのコミュニケーションへの抵抗感の払拭は、有効だったと思われる。英語の授業研究会の実施の回数の増加や研究会の持ち方、教員自身の英会話力の向上及び英語教育の生活化(生活のなかで英語を学ぶ等)等について、今後の検討課題ではないだろうか。

第四次南風原町総合計画

〈大分類〉○地域に学び、地域を愛する人を育む、ふるさと教育

〈中分類〉○地域での体験や交流機会の充実

〈小分類〉○児童生徒をはじめ住民の郷土愛と視野を広げるため、国内・国外の交流機会を充実します。

事業名 (担当課)	事業概要	評価区分	評価詳細					説明等
			妥当性	効率性	有効性	今後の展開	総合評価	
学校教育課	児童生徒県外交流事業 (徳島・南風原、子ども友好サマーキャンプ交流事業)	内部評価	4	4	3	3	A	小学生12名・中学生10名を徳島県つるぎ町に派遣し地元の中学生や、民泊家庭と交流が出来ました。登山や山村家庭の民泊で沖縄では出来ない自然体験を経験し地元南風原町の良さを知る事もできました。
		外部評価	3	3	3	2	B	町内の児童生徒に県外他地域を訪ねて、環境の異なるところで学ぶ同世代との交流を通し、その土地の特色や習慣・文化、歴史について、生活(民宿)・体験(登山や藍染め、阿波踊り)を通して学び得たことは参加した児童・生徒の今後の生き方に大きな示唆を与えて行くものと思う。 当で経験できない剣山の登山は、頑張る力となり、南風原と共通した藍染めや織の文化は南風原の絆の糸染めを想い、阿波踊りに関しては、エイサーや棒術の事を想ったであろう。その違い等を実感し故郷の良さを発見し、夏の大きな思い出とともに繋がりと云う成果を持ち帰ったでしょう。 将来本町を担う児童生徒に、多様な経験を通して、強く、逞しく、人との繋がりを大切にする優しさを学ぶ機会となり良い企画だと評価する。 参加の機会を得た児童生徒にとっては、大きな成果を持ち帰ったと思うが、この事業が広く校内に持ち帰られていない。この貴重な体験をクラスの友達や学校内で共有出来ていないことは残念である。学校における報告会を行って大勢の生徒と交流地の生徒の繋がりの輪が広がることを希望する。

第四次南風原町総合計画

〈大分類〉○人もまちもきらきら育つまち

〈中分類〉○地域に学び、地域を愛する人を育む、ふるさと教育

〈小分類〉○地域での体験や交流機会の充実

事業名 (担当課)	事業概要	評価区分	評価詳細					説明等
			妥当性	効率性	有効性	今後の展開	総合評価	
生涯学習文化課	公民館講座事業	内部評価	4	3	3	3	B	中央公民館を生涯学習の拠点とし公民館学級講座・自治公民館出前講座・公民館まつり等の各種事業を実施し、学習機会を提供しコミュニティづくりに努めた。公民館学級講座については、マンネリ化しており、平成27年度は、受講者にアンケートを実施し、町民のニーズに応える。19の講座を開講し、内10講座を新規講座とし受講者数の増加に努める。
		外部評価	4	3	4	3	A	中央公民館学級講座17講座(総定員数482人)、自治公民館出前講座10講座が7月からよく年の1月にかけて実施されている。各講座とも実施回数や実施時期、内容に特色があり、13の講座が5年以上続いており、かすりの端切れを使った袋物工芸など20年以上も続く講座もある。26年度は前年度から続く2講座が定員割れなどで実施できなかった一方、町民の学習ニーズなどを踏まえて3講座が新規で開設された。学級講座の受講者数は339人で定員の70%、ほぼ例年の受講者数となっている。自治公民館出前講座の受講者数は129人、受講者総数は468人で目標の500人に達しなかった。 町民の学習ニーズや講師の都合などで毎年2~3の講座が廃止され、新たな講座が開設されてきた。今回新規で開かれた3講座を含め8の講座が、マンネリ化などを理由に27年度は開設されなかった。町民の文化発展を目標としていた内容が、心の豊かさや生きがい作りにシフトした結果、27年度の新規講座は、より健康作りに重点を移した内容に変化している。 講座内容では民間のカルチャースクールとの差別化を図り、地域の講師の活用や地域作りの視点で南風原に特化した講座の開設もある。都市化の影響で町民のニーズと地域のニーズがかみ合わない現状もでてきている。出前講座等で地域のニーズを掘り起こし充実を図ることが講座全体の底上げとなって行くと思われる。 今後ふるさと教育の充実を図るために、郷土文化の継承、南風原らしさを育む講座内容を工夫しつつ、町民の学習ニーズや地域のニーズに答えていく必要がある。さらに講座参加者の交流を深めたり、発表の機会の充実を図る。またより多くの自治会で出前講座が開設できるように積極的に働きかける。さらに講座内容についての広報活動を活発に行い、多くの町民が参加できる講座の開設を目指してもらいたい。

第四次南風原町総合計画

(大分類)〇人もまちもきらきら育つまち

(中分類)〇地域に学び、地域を愛する人を育む、ふるさと教育

(小分類)〇地域での体験や交流機会の充実

事業名 (担当課)	事業概要	評価区分	評価詳細				総合評価	説明等
			妥当性	効率性	有効性	今後の展開		
生涯学習文化課	陸軍病院壕公開活用事業	内部評価	4	4	4	4	A	<p>沖縄県内及び全国的にも、アジア・太平洋戦争時の戦争遺跡を行政が責任を持って管理して公開しているところはなく、先進的な取り組みである。特に、文化センターの展示と合わせて壕の見学ができるため、総合的に沖縄戦の学習ができることへの評価は高い。県内外からの修学旅行を含めて、平和学習で訪れる見学者の実績が平成26年度は約1万人を越えた。</p>
		外部評価	4	4	4	4	A	<p>町の文化財に指定され、沖縄戦を体験する施設として公開されて9年目を迎える。今年度年間利用者が1万人を超えた。より戦争の実相を伝える取り組みとして、戦争当時の壕内の臭いを再現し、希望する見学者はこの再現臭気を嗅ぐ体験ができるようになった。今年度はこの再現臭気を2500人が体験した。当時の壕内をリアルに体験できる取り組みとして評価されている。また平和ガイド養成講座は8年間で131人が受講し、現在74人がガイドとして活躍している。平和学習を目的とした修学旅行や団体見学、申し込み個人でも活用でき、文化センターの見学と併せて幅広い年齢の見学者に利用されている。</p> <p>陸軍病院壕は黄金の森を中心に広く張り巡らされた施設であるが、ほとんどが落盤し入り口はふさがれている。現在公開されている壕は安全管理が徹底され、管理人による日常的な点検や、委託業者による観測機器でのひずみの測定などの安全管理が徹底されている。また壕内は当時の様子を再現し明かりを消した状態でも見学できるように工夫され、少人数グループによる見学で安全に配慮し、効果的なガイドが行われている。</p> <p>沖縄戦の当時の状況を体験できる施設として、管理され公開されている施設はほかにはなく、この事業は県内外からも高く評価されている。ガイドは毎年講座を受講して証言者から直接話を聞くなどして質の担保を計り、新しい情報の提供などに努め見学者の質問にも丁寧に答えている。また文化センターと併せて見学することで総合的に沖縄戦を理解しその背景となっている南風原における戦争についても理解することができる。</p> <p>沖縄戦の体験者が高齢化し亡くなっていく中で、戦争の実相を語る貴重な証拠として今後も壕公開活用事業を継続して取り組んでいく必要がある。見学者の増加や自然風化による壕の劣化に備えた観測機器の設置や常時の点検を継続し、安全管理を徹底するとともに、壕の保存・活用について今後も継続して検討していくことが望まれる。黄金の森全体が戦争遺跡であることを踏まえ、町民や県内外から多くの見学者を受け入れる事業として発展することを望む。</p>

第四次南風原町総合計画

(大分類)〇人もまちもきらきら育つまち

(中分類)〇地域に学び、地域を愛する人を育む、ふるさと教育

(小分類)〇平和学習や歴史学習の推進

事業名 (担当課)	事業概要	評価区分	評価詳細				総合評価	説明等
			妥当性	効率性	有効性	今後の展開		
生涯学習文化課	子ども平和学習交流事業	内部評価	4	4	4	4	A	<p>町内の4小学校の6年生たちが、初めて顔を合わせ仲間作りをすることができた。共に戦争の歴史、平成26年度は学童疎開についてを学び、これから構築する平和とは何か、人権とは何か、歴史の中で侵された人権について考え、身近ないじめについても気づき、自分の考えを持って行動を意識するようになった。報告会、報告書でまとめることができた。事業終了後は、OB会との交流を通して、継続的な活動が展開されるようになっている。</p>
		外部評価	4	4	4	4	A	<p>この事業は、南風原町内の各小学校の児童を対象に、「南風原町の子どもたちが仲間づくりを通し、戦争や平和、差別や人権などについて交流や諸施設などでの研修を重ねながら、平和について広く学習を深める。」趣旨で、平成6年度から実施されてきた。息の長い事業の一つであり、平和を希求する町民のニーズにも適っている事業であると評価できる。今年度の事業は、上述の趣旨に加え、学童疎開70周年という節目の年ということもあり、船で鹿児島に行き、そこから疎開先の宮崎県と熊本県の学校などを疎開体験者と共に訪ね、その足跡をたどりながら学童疎開の歴史や人々の思いを学ぶと同時に、現在の子どもの学童疎開つなりの交流を深めることを意図して取り組まれた。この事業の趣旨や学童疎開地の訪問の意図を踏まえると、この事業は未来の南風原町・沖縄県・日本の平和の構築に繋がる投資でもあったと考えられる。子どもたちは、事前学習を充分に行い、県外での本研修に臨んでいる。そのせいか、子ども達の報告の内容も充実している。また、学童疎開に関わる当事者の文章と子ども達の報告が掲載されている。第20回の報告書『あしあとに咲く』(平成26年度)の作成も、今回の学びを、少数の子どもの学習にとどめないで、他の子どもの平和学習にも利用できるという点で意味のあることだと評価できる。</p>

おわりに

本年度も、昨年までと同様、教育に関する事務の管理及び執行状況の点検、評価に関して事業の概要や状況について説明を受け、さらに学校等関係機関を視察し、三名で慎重に審議を行った。

教育委員会運営事業については、毎月の定例会への出席率も高く、適切に審議案件をこなし、業務に支障が無いようにしていること。学校や幼稚園に出向き教育の実態の把握に努めながら、教育の改善に繋げようとしていること。研修会に参加し、教育に関する見識を磨いていること。今年度も社会教育委員と意見交換を行い、町の教育向上を図ろうとしている姿勢が窺えること。このような点を高く評価した。その上で話題に上ったのは、教育委員会事業の質を維持しつつ、これまで以上に事業の質を高めるにはどうしたらよいかということであった。社会や教育がめまぐるしく変化するなかで、教育委員の任務や役割にも変化が求められるであろう。そのようなことも視野に入れ、教育委員の仕事のあり方について、今後どうしていくか論議していただければと思う。

黄金森公園スポーツ施設活性化事業については、施設環境の整備やプロサッカーチーム名古屋グランパスエイトの春季キャンプ誘致等に見られるように、計画どおり進められ、目的を達成している。しかし、諸施設が整備されたにも関わらず、周知徹底が十分でなく、町民の認知に課題が残されている。この点の改善が必要である。

黄金森公園運営事業については、ウォーキングコースにソフトラバーが施されるなど施設が整備され、さらに専属の指導員の配置もなされ、安全且つ適切な運動ができるようになった。また、これまで同様スポーツ以外の面でも重要な役割（憩いの場など）を果たしている。町内外の利用者の利用料金の差別化がなされ、町民の利用に一定の効果が見られるようになってきている。そうした点を見て高く評価した。しかし、陸上競技場にゾーンを作り運動の内容を掲示で示すと、より有効な運動ができるのではないかという意見も出ていたことを紹介しておきたい。

学校給食実施事業については、今年度も郷土食メニューの導入や食育指導がなされ、事業内容が充実している。また、幼稚園でも給食と食育指導がなされている。さらに、衛生管理の徹底や、アレルギー対策もなされており、そうした点を高く評価している。

教育相談事業については、児童生徒の不登校にいたる理由や状況を把握し、教育委員会、社会福祉協議会、適応教室、こども課、南部福祉保健所、南部地区民児協、与那原警察署等と連携・協力しながら、不登校の児童生徒それぞれの状況に応じたサポートを行っている。そのことにより、登校回数が増えるなどの効果も見られている。このようなサポート体制の構築と働きかけを評価している。

英会話教育の充実事業については、各小学校に英語指導助手1名を配置、各中学校に外国人英語指導助手を1名配置して、英会話に対する苦手意識の払拭に努め、一定の効果があつたことを評価している。ただし、中学での標準学力調査の平均正答率の向上を目指す

ことが、英語嫌いを生むことにならないか、心配な点もある。

児童生徒県外交流事業については、参加した児童生徒にとっては、他県の児童生徒との交流や、多様な経験をするなど、意義のある事業であると評価できる。しかし、交流の様子などが冊子以外で報告されておらず、各学校の児童生徒に充分還元されていないなど課題が残されている。このことを克服していくかどうかが、この事業の継続を左右するように思われる。

公民館講座事業については、住民の要求に合わせた講座の開設がなされている。また、町の歴史や文化の継承という面から、20年以上続く講座もあり、単純にマンネリ化しているという理由で、講座の改廃がなされていないということも評価している。

陸軍病院壕公開活用事業については、沖縄戦を体験できる施設として県内外から評価され、文化センターの見学と合わせて、見学者の数も一万人を越えるようになってきている。新しく臭気を嗅ぐ体験の実施もなされた上に、これまで同様に安全に対する配慮や、ガイドの養成なども行われており、高く評価できると判断した。

今回子ども平和学習交流事業は、疎開70周年という節目を踏まえて、子ども達が学童疎開の当事者と共に、船で鹿児島島に行き、そこから疎開先の宮崎県や熊本県の学校などを訪ね、疎開の歴史や関係当事者の話を聞くという内容で実施された。この事業は、町民の平和を希求するニーズにあった事業であり、今回疎開と結びつけて実施したということで時宜に適った内容であると判断した。第20回の報告書も、各校での平和学習と繋げられる内容であったことも加味すると、この事業は高く評価できる。この他に、この事業に参加したOB、OGに当たる子ども達が、大人になり、この事業をサポートしていることもこの事業の成果として着目された。

以上、厳しく評価した事業もあるが、昨年同様各事業は、地域に即した優れた事業が多かった。厳しい評価は、南風原町の教育委員会の各課の力量を踏まえた、期待の裏返しである。

次年度以降も、教育委員会の事業が協働しながら活性化し、発展していくことを強く願って、「おわりに」の言葉としたい。

